

交渉の議事要旨

(開催日時)

平成25年7月25日(木) 13:30~14:30(60分)

(開催場所)

留萌開発建設部 第2会議室

(出席者)

当局側(留萌開発建設部)

許士 裕恭(留萌開発建設部長)、新井 龍也(留萌開発建設部次長)、
関 新次(留萌開発建設部次長)、折原 靖夫(留萌開発建設部次長)、
河田 和浩(総務課長)

職員団体側(全北海道開発局労働組合留萌支部)

打田 智美(執行委員長)、村上 雅彦(副執行委員長)、加藤 健吾(書記長)、
渡邊 和直(執行委員)、江畑 誠子(執行委員)、亀口 裕一(執行委員)

(議題)

- ・ 当部における超過勤務の縮減について
- ・ 当部における職員のメンタルヘルスについて
- ・ 当部におけるパワーハラスメントが行われない職場環境の整備について
- ・ 当部における育児休業等を活用しやすい職場環境の整備について

(要求書に対する回答)

要求書のうち、取り決めた交渉議題について回答(別紙のとおり)。

(発言概要)

【議題1：当部における超過勤務の縮減について】

(職員団体) 各部門における超過勤務実態を把握しているか。

(当局) 第1四半期の状況については、特に河川及び道路部門で長時間超過勤務者が存する状況であるが、春先における道路災害の影響で超勤時間数が増加した昨年度同時期に比して、今年度は概ね減少しているところである。

(職員団体) 特定の者が長時間の超過勤務を行っている状況から、職員毎のきめ細かな業務の進行管理がなされていないのではないか。

(当局) 職員とのコミュニケーションを図りながら超過勤務の状況や業務内容の把握に努めるよう管理者へ指導してきているところであり、引き続き超過勤務の縮減につながるよう、適正な業務分担と円滑な進行管理に努めていきたい。

【議題2：当部における職員のメンタルヘルスについて】

(職員団体) メンタル系患者をフォローできる職場体制となるよう求める。

(当局) 復帰者への再発防止対策と併せ、他の職員への業務分担についても、特定の者への過度の負担とならないよう、引き続き管理者への指導に努めていきたい。

【議題3：当部におけるパワーハラスメントが行われない職場環境の整備について】

（職員団体）パワーハラスメントが行われない職場環境の整備をしていただきたい。

（当局）管理者及び職員に対し、パワーハラスメント防止に関する周知啓発を図り、引き続き良好な職場環境づくりに努めていきたい。

【議題4：当部における育児休業等を活用しやすい職場環境の整備について】

（職員団体）女性職員に限らず男性職員も安心して育児休業等を活用できる職場環境となるよう求める。

（当局）育児休業者等に係る業務を円滑に処理するために必要な措置を講ずるなど、両立支援制度を活用しやすい職場環境づくりに努めるよう、引き続き管理者への指導を図っていきたい。

※文責は留萌開発建設部当局（今後修正等があり得る。）

交渉議題に関する回答メモ

1. 当部における超過勤務の縮減について

超過勤務の縮減については、当局としても重要な課題であると考えている。

本来、業務は勤務時間内で処理することが望ましいと考えるが、業務の性質や時期によっては、超過勤務が避けられない場合がある。

当局としては、職場の超過勤務の実態等を踏まえ、業務運営の一層の簡素・効率化を図り、業務の円滑な進行管理を行うとともに、週休日及び休日出勤の縮減、定時退庁日における定時退庁の励行など、超過勤務の縮減に努めてきたところである。

また、超過勤務を命ずる場合には、職員の健康を害しないように考慮しているところであり、今後とも、この点に十分配慮するとともに、きめ細かな業務の進行管理に努めるよう、管理者を指導していきたい。

2. 当部における職員のメンタルヘルスについて

職員の心身の健康の保持増進については、業務を円滑に遂行していく上で重要な事項である。

特に、心の健康づくりについては、メンタルヘルス教育の徹底や心の健康に関する情報の提供などにより職員の理解と知識を深めるとともに、ストレスチェックの実施やカウンセリング制度・健康管理医（精神科医）による心の健康相談の利用促進を図り、心の不調の予防と早期発見・早期対応に努めていく考えである。

また、長期に亘って病気療養した職員については、人事院の指針に沿った円滑な職場復帰支援策を進めていきたいと考えている。

3. 当部におけるパワー・ハラスメントが行われぬ職場環境の整備について

パワー・ハラスメントについては、一般的に、職員の人格と尊厳を侵害し、勤労意欲を減退させるなど、職場内秩序を乱し、職場の活力低下を招く要因となるものであり、その防止に努めていく必要がある。

この防止については、管理者・職員の双方において、パワー・ハラスメントに関する問題意識と具体的な行為に関する認識を共有することが重要であり、各種会議等の機会を捉えて周知啓発を図り、良好な職場環境づくりに努めていく考えである。

4. 当部における育児休業等を活用しやすい職場環境の整備について

職員が職業生活と家庭生活の両立を図ることができるよう職場全体で支援していくことは、当局としても重要であると考えている。

当局においては、「国土交通省特定事業主行動計画」に基づき、仕事と子育てを両立できる職場づくりを目指し、取組を推進しているところであり、育児休業をはじめとする各種両立支援制度について、管理者に対し、諸会議等の場で、ワーク・ライフ・バランスの意義を含めて周知を図っているほか、全職員に対し、制度の概要・詳細、意識啓発リーフレット等をイントラネットへ掲載して周知を図っているところである。

また、各職場の管理者に対しては、関係職員へ適時・適切に両立支援制度の情報提供を行うとともに、休業者等に係る業務の処理方策を早期に検討するなど、制度を活用しやすい職場環境づくりに努めるよう、引き続き指導を図っていく考えである。